令和５年度　広報かほく８月号より
（一部修正）

シリーズ かほく市の 文化財 No.26

遺物 編　上山田貝塚から出土した「貝輪」

今回は、国指定史跡「上山田貝塚」から出土した「貝輪」について紹介します。

上山田貝塚は、上山田地内にある通称「タチヤマ」という丘陵で見つかった縄文時代中期の貝塚です。当時、大量の貝を食したものとみられ、貝殻が大量に出土し、縄文土器や石器、骨や牙を加工した遺物も出土しました。

その出土遺物の中で「貝輪」と呼ばれる遺物があります。これは、貝殻に孔を空け、丁寧に磨き、身に着けていたとされる当時のアクセサリーです。この「貝輪」の貝について着目し、研究した動物考古学者の吉永亜希子氏は、上山田貝塚から出土した「貝輪」の貝種に着目し、一部の「貝輪」の貝がかほく市の海で採取できない貝が使われており、その貝が縄文時代中期の七尾湾で採取されたものではないかと発表しています（令和元年５月１７日、日本貝類学会若手の会口頭発表）。

また、石川県埋蔵文化財センターによって行われた七尾市中島町田岸地内にある縄文時代中期の「田岸遺跡」の発掘調査（令和元年度に調査）では、上山田式土器が出土しています。このように、縄文時代中期頃に上山田地域と七尾湾周辺の地域が関係していることが伺えるかと思います。移動手段が限られ、現代とは環境も違った縄文時代に、当時がどのような社会であったかを皆さんも考えてみませんか？

かほく市教育委員会 スポーツ文化課

上山田貝塚出土遺物

中央が貝輪、その他は食べたあとの貝殻、骨を加工した製品